

神戸地域夢会議「生ごみリサイクルの現場を知る 2」

と き	平成 16 年 3 月 9 日 (火)
と ころ	豊中駅前まちづくりセンター、 緑と食品のリサイクルプラザ
参加人数	25 人

開催趣旨

神戸地域ビジョン委員会「環境・循環型社会」グループのメンバーを中心に、生ごみリサイクル活動の現場を訪ね、生ごみの堆肥化について造詣の深い方々の説明を聞きながら、私達が日常生活のなかでできる生ごみリサイクルについて考えます。

テーマ 生ごみのリサイクル、堆肥化

プログラム

- ・豊中駅前まちづくり協議会の生ごみリサイクルへの取り組み状況について
- ・緑と食品のリサイクルプラザ（豊中市）の施設見学・説明
- ・花と緑のネットワークとよなかの生ごみ堆肥の活用状況について

説明の内容

豊中駅前まちづくり協議会

（環境部会代表 小林 俊子さん）

生ごみを何とかしたいという思いから出発し、市民活動としての街づくり、花いっぱい運動をすすめてきました。現在はE M菌・バケツを用いての堆肥づくりから、阪急豊中駅前のホテル別館での花壇づくり、駅前通りのプランターづくりに取り組んでいます。他にもリサイクル文庫、牛乳パックの再利用、廃油からの石鹸づくりなど様々なことをやってきましたが、まだまだリサイクル活動の周囲への広がりが足りないと感じます。生ごみの堆肥化は長く続けるのが大変で、若い人にも加わってほしいのですが、飽食の時代でもあり難しいというのが現状です。今後はハーブ栽培と結びつけることにより、生ごみ堆肥化の輪をもっと広げていけないかと計画しています。



花と緑のネットワークとよなか

（理事・代表 高島 邦子さん）

理事・事務局長 中村 義世さん）

豊中市の堆肥化施設「緑と食品のリサイクルプラザ」では、学校の給食センターで出た生ごみに、剪定枝のチップなどを混ぜ、土壌改良材「とよっぴー」を製造しています。今年は約80トンの堆肥が生産される見込みで、3キロあたり100円という低価格で一般にもお分けしています。「とよっぴー」の配布・活用は市民団体である私た



ち「花と緑のネットワークとよなか」が担当しています。月2回の堆肥化講習会や、市民応援団「とよっぴー倶楽部」加入の呼びかけなどを通じて、市民のみなさんに生ごみの減量や、生ごみからできた堆肥の使用などについてPRしています。

会場との意見交換

【豊中駅前まちづくり協議会】

- ・EM菌を用いてコンポストをやっていますが、できた堆肥の処理に困っている。

豊中もほとんどが市街地で、土が本当に足りない。みんなが生ごみを堆肥化したならば、とても処理しきれないと思う。私たち市民の立場では、身近なプランター作りなどから始めていくほかないのでは。

【花と緑のネットワークとよなか】

- ・生産された堆肥の流通経路や、流通範囲はどのようになっているのでしょうか。

たとえば山形県の長井市のように農地の豊富な地域ならば「レインボープラン」のような堆肥の全体的な循環プランが描けますが、農地の少ない豊中の場合は、主に市の事業所や農家、市民農園等での利用を呼びかけております。



地域ビジョン委員の声

「花と緑を通して人の和づくり」

倉島 陽子

豊中駅前まちづくり協議会からは、家庭の生ごみを、EM菌・米ぬか・糖みつで作った「ぼかし」という物と混ぜて堆肥を作る方法を、ていねいに教えていただきました。一度自分でも作って見ようと思いました。

「緑と食品のリサイクルプラザ」は、学校給食から出た生ごみに街路樹等の剪定枝を混ぜて堆肥を製造し、農作物や花の栽培等に有効活用している本格的な設備で、こんな設備が神戸市各区にもあれば良いと思いました。

私が所属している50人委員会板宿会では、花と緑を通して人の和づくりをしようと、月2回地域の花壇の整備・管理をしています。これまでは燐炭や腐葉土、化学肥料を購入して使っていましたが、このような設備が近くにあれば、そこでできた堆肥を利用することができます。公園やストリートガーデン等に関係しているさまざまな団体や個人が活用できると理想で、私達が住んでいる街が美しい街になって行くという希望がわいてきました。

